

同志社よ、その名は一つの目的を意味する

# ONE PURPOSE

【同志社人訪問】 「麦の夜明け」店主 伊藤 聡孝さんに聞く

2023 Autumn | Vol.211

## 巻頭企画 [リーダーに訊く]

TOYO TIRE株式会社  
代表取締役社長&CEO

しみず たかし  
清水 隆史さん



RE: Connecting with a world full of opportunities

GLOBAL

国際交流、再び

同志社は2025年、創立150周年

150年の #3群像  
歴史をたどるHistory of  
DOSHISHA「温故知新」。未来  
への挑戦の指針

を学びとるべく、積み重ねてきた歴史をたどる。同志社は新島襄を中心に、幾多の困難を乗り越え、志を同じくする人々の祈りの中から誕生しました。「150年の歴史をたどる」第3回は、同志社を同志社たらしめた若者たちの群像を紹介します。

## INDEX

- 02 150年の歴史をたどる #3群像
- 04 巻頭企画 [リーダーに訊く] TOYO TIRE 株式会社  
代表取締役社長&CEO 清水 隆史さん
- 08 研究の最前線  
グローバル・コミュニケーション学部 MOUTON GHISLAIN助教
- 10 突破する学生たち SIED  
大谷 さくらさん(商学部4年次生)×三輪 玲以佳さん(文化情報学部3年次生)
- 12 DOSHISHA DNA  
パナソニック株式会社 海外マーケティング本部 小原 歩南美さん
- 14 来年度就職を目指す皆さんへ
- 16 同志社校友会
- 17 クリスマス・イルミネーション点灯式 / 第148回 同志社EVE
- 18 ゼミで学ぶ 魅力を語る
- 20 本学教員の執筆図書紹介
- 21 同志社人訪問 「麦の夜明け」店主 伊藤 聡孝さん
- 24 My Purpose 挑戦する人 佐々原 悠馬さん(政策学部政策学科4年次生)

倜儻不羈なる

若者たちの軌跡

初期同志社を支えた熊本  
バンドの主要メンバー  
(1879年撮影)。



## お知らせ

「ONE PURPOSE」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。 ▶ <https://www.doshisha.ac.jp/>

卒業生の住所変更、発送停止を希望される場合の連絡先は以下にお願いします。  
校友課 TEL: 075-251-3009 MAIL: [ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp)

1875年11月29日、京都・寺町の仮校舎で、同志社英学校は開校しました。生徒数8名、教師は新島襄とJ.D.デイヴィスの二人だけ。同志社という校名は「志を同じくする者の結社」を意味しています。創立時のメンバーは、教師と生徒というだけでなく、まさに志を同じくする者、最初の同志たちと言っていいかもしれません。とはいえ、その規模は「学校」を名乗るには小さいものでした。

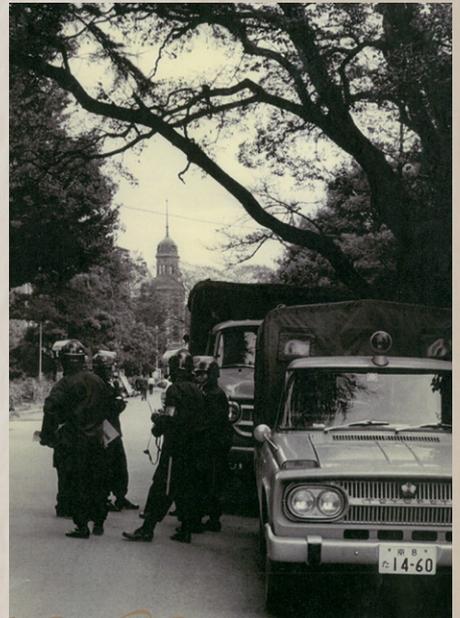
その翌年より、同志社は熊本から三十数名の新しい同志を迎えます。熊本洋学校で軍人教師のキャプテン・ジーンズから英語で授業を受け、当時としては極めて高度な学識を身につけるとともに、キリスト教への熱い思いを抱いた、いささか過激な転校生たち。のちに「熊本バンド」と呼ばれる面々です。彼らは生徒の立場でありながらも同志社の教育レベルの向上を求めて新島襄に直談判する自己主張のはつきりした集団でした。新



今からちょうど100年前、大学本科に女子学生が入学した。私立大学としては同志社が初。

# 1923

熊本バンドの「個儼不羈なる書生」たちは、その後、実業家として、政治家や官僚として、また教育者や宗教家として、日本の近代を駆け抜けていきます。同志社の第八代総長を務めた海老名弾正もその一人。海老名総長のもと、同志社大学は大学令準拠の私立大学として初めて女子学生の入学を認め、男女共学を実現します。このとき、開かずの門を開けた女子学生もまた、個儼不羈なる同志社人と言えるでしょう。そんな若者たちの系譜は、戦後にも継承されていきます



学園紛争のピーク時、機動隊が学内に入り駐留した。大学自治が大きく揺らいだ出来事。

# 1969

島襄の遺言に「同志社ニ於てハ個儼不羈なる書生ヲ圧束せず」という一節があります。個儼不羈とは、才能に優れ、常識や規則にとらわれないこと。これを口述したとき、襄の脳裏には熊本バンドの若者たちの顔が浮かんでいたのかもしれませんが。口述を筆記したのは明治から昭和にかけての大ジャーナリスト・徳富蘇峰。彼もまた熊本バンドの一員でした。

1947年6月、学生の自治組織として学友会が発足。「大学設立の趣旨に基づき、学生自治により校風の振作と学生生活全般の発展向上をはかること」を目的としていました。1952年には全学学生大会において全学連への加入を決議。1969年には田辺町移転、大学運営臨時措置法案、1970年安保に反対して6カ月間わたる全学バリケードストライキを実施するなど、全国の学生運動をリードするような闘いを展開していきます。

学生の自発的な行動は、このような闘争ばかりではなく、たとえば現在まで続く障がい学生支援制度も、1999年4月、商学部に所属する聴覚障害学生及び当該学生が所属する学友会任意団体手話サークルU.Z.Uの学生が声を上げたことが大きな転機となりました。信念と独立心をもち、声を上げ、行動する。同志社は、そんな学生たちの群像が築いてきた大学でもあるのです。



# 2021

障がい学生支援制度発足20周年の企画展を機に制作した冊子。





TOYO TIRE株式会社 代表取締役社長&CEO

しみず たかし  
清水 隆史さん

1985年、同志社大学経済学部卒業後、東洋ゴム工業(現・TOYO TIRE)入社。米国子会社の社長や常務執行役員などを経て、2015年から現職。17年に社の理念を再構築してカードにまとめ、全社員に持たせることで目的意識の共有化を図った。社員との座談会では、車座になって自由に質問し合うことを楽しんでいる。服装の自由化に伴い、自らもジーンズ姿で出社することも。学生時代はゴルフ部に所属。ドライブも趣味だが、あまり時間がとれないのが悩み。現在、日本ゴム工業会会長も務める。

## 強みを生かしたグローバル戦略

自動運転化、電気自動車(EV)の浸透など、自動車業界は今、100年に一度の大変革期にあるといわれる。その波は当然、足回りを支えるタイヤメーカーにも及んでいるが、TOYO TIRE代表取締役社長&CEOの清水隆史さんは、自信に満ちた表情を浮かべる。

「特にEVでは、バッテリーの搭載によって重くなる車両重量を支えるため、タイヤは大口径化する(ホイール直径が大きくなる)と言われています。しかもトルク(駆動力)が高い状態で発進するため、走る・曲がる・止まる機能を担うタイヤには、より高い技術的進化が求められています。当社にとって、大きなビジネスチャンスです」

TOYO TIREが得意とするのは、ピックアップトラックやスポーツ用多目的車(SUV)向けの「大口径タイヤ」だ。タイヤのホイール直径は乗用車では16インチが一般的だが、同社のメインターゲットである北米のピックアップトラックは20インチ以上。EVピックアップトラックでは24インチのケースもある。1966年、他社に先駆けてアメリカに販売拠点を開設して以来、同社は市場ニーズを的確にとらえたマーケティング活動により、特長ある商品展開を行ってきた。それが大口径タイヤである。

タイヤは大口径化するほど真円に回るのが難しくなるが、同社はこれを可能にする独自工法の開発によって、真円性の高いタイヤの製造に成功した。また、2000年代初頭には、デザイン性の高い大口径SUVタイヤを投入。それまで摩擦すれば買い替える、消費財だったタイヤに、「ホビー性」という新しい価値を加えることでクルマをカスタマイズして楽しむという潜在ニーズを掘り起こした。

「グローバル戦略というと、いかに事業規模を大きくす

国際交流、再び

# RE:GLOBAL

旅行や留学、ビジネスなど、様々な形で国際交流が再開される中、人と人とが直接出会うこと、言語や文化の壁を越えて理解し合うことの大切さが改めてクローズアップされています。今号では「国際交流、再び」をテーマに、独自のグローバル戦略で世界に挑む企業を率いるOB・OGや、異文化間コミュニケーションの構築について研究する本学教員、様々な企画で草の根国際交流を図る学生たちを紹介します。

## 時代を読む先見性と技術力で グローバルに「走る」を追求

TOYO TIREは、独自の技術力ときめ細かなマーケティング力を武器に、各種自動車用タイヤをグローバルに展開。変革期にある自動車業界で、顧客マインドに応えるモノづくりで存在感を放ち続けている。

るかで語られがちですが、当社の経営スタイルは質的向上にあります。独自の技術に裏打ちされた高性能・高品質なタイヤは、少々高くても指名買いされます。収益性の高い高付加価値商品を重点商品と位置づけ、グローバルに展開する戦略をとっています。商品全体に占める割合を2025年度までに55%にする計画でしたが、すでに今年、その比率は63%に達しました」

国内2工場に加え、2000年代にアメリカ、中国、マレーシアと相次いで工場を開設。22年12月にはセルビアの工場が稼働を始め、日本・アジア、北米・欧州4極での生産供給体制が整った。グループの連結売上高は今年度、5600億円と過去最高を見込む。

「当社は企業規模としては国内4番手、世界で12番手ですが、営業利益率は業界トップクラスです。独自の販売チャネルを持たないことを『持たざる強み』とする一方で、『強いところはより強く』という方針のもと、性能と意匠性を両立する技術力や独自の生産工法を磨き、高めてきました。これがグローバルで戦う当社の戦略です」

### 海外駐在時の経験が大きな財産に

清水さんは本社長経理・財務部門を経て1993年、管理部門担当としてドイツ現地法人に駐在した。初めての海外勤務では、現地滞在歴20年以上の日本人上司に学ぶことが多かったという。

「現地の人を採用する人事的なことから、経営合理化、情報システムの構築まで、様々なことをしなければいけませんでしたが、でも上司を見てみると、自分は前に出ず、現地のトップをうまく使っているんです。現地の市場や文化



を誰より理解しているのはその国の人です。駐在員の役割は、黒衣くろくわいになって現地の人働きやすい環境を作ること。ドイツ人が日本の企業のために働くことを手助けしたり、日本側につないだりしていただくことが大事なんだと思いました」

2007年には販売会社と製造会社をコントロールする統括会社を作るといふ社命を受け、アメリカへ赴任。今に続く強固な米国ビジネスの礎を築いた。海外駐在を通じ、日本とは異なる、世界でのビジネスを体得できたことも大きな財産だったと振り返る。

「日本では『あうんの呼吸』<sup>二</sup>を聞いて十を知る」というような文化がありますが、ドイツでもアメリカでも、自分の意見をはっきりと伝えることが求められます。互いに相手へのリスpekトを持ちながら建設的に意見交換する文化、無意識の壁を取り払った環境づくりが大切です。多様な人々と新しい関係性を築き、自立的に責任ある言動が取れる人たちが育成していくことが、これから企業には必要となります」

## コロナ禍で再認識

### 社会的使命の重さ

2015年に社長に就任して数年後、



アメリカで一世を風靡しているSUVタイヤ「OPEN COUNTRY」は、国内でも「オプカン」と呼ばれ人気を博している。

新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われた。「グローバルなつながりを持つ経済も、ひとたびサプライチェーンが分断されると多面的に大きな影響を受けることを思い知らされました」。しかしそれは同時に、自社の社会的使命の重さを再認識する機会にもなったという。ロックダウン（都市封鎖）が行われたアメリカで様々な店や工場が活動停止を余儀なくされる中、TOYOTA TIREはヒト・モノの往来を支える文字通り、足<sup>二</sup>として、生産・供給を続けるよう要請されたからだ。事業の本質的価値を再認識したという清水さん。グローバルに社会的責任を果たす企業として、役員から従業員まで、社の理念の共有・浸透に層力を入れるようになったという。

コロナ禍を経て、社員の「働き方改革」も一気に進めた。在宅と出社のハイブリッド形態にし、本社オフィスもフリーアドレスにして社員がいつでも好きな場所で働けるようにした。

「技術というのは、技術者の好奇心や探究心、挑戦心などから生まれてくるものだと思います。純粋に技術の進化を追求する人たちの情熱をぶつけられる場があるかどうか。それが会社の強みを作る上で大事になってく

ると考えています」

組織も事業別から機能別に切り替えたことで判断から実践までのスピードが上がり、コロナ禍でも赤字になることはなかったそうだ。

## 「挑戦して志を磨いて」

前例にとられない自由な発想は、中学から大学まで過ごした同志社で培われたと清水さんは語る。

「同志社香里中学時代から新島襄とキリスト教の授業を受けてきて、自由な学びの場を与える・作るという精神が同志社には根付いているなと感じていました。大学時代、私はゴルフ部に入っていたのですが、大会に行く、他の大学のチームが全員丸坊主だったりユニフォームをそろえていたりする中で、同志社は髪型も服装もばらばらなんです。でも関西で2位、全日本でも4位に入るほど強かったです。自由であるからこそ発生する責任に、自覚的だったのだらうと思います。ゴルフ部の練習はそんなにきつくないんですが、だからこそ自分で練習しないと試合には出られません。自由の中で責任を持って自分でやり抜くというところは、すごく勉強になったと思います」

社会のポータレス化が進む中、環境問題をはじめとする課題も山積している。これから社会に出る学生たちには、どんな心構えや資質が求められるのだらう。

「学生のみなさんには、社会に出るまでに様々な挑戦をして、自分の志を磨いてほしいと思います。私が経営の中で大事にしているのは『原理原則』という言葉です。

もの理ことわりと、根本的な法則。迷った時にはいつも、この言葉に立ち返ることにしています。大切なことは、原理原則を守りながら挑戦すること。挑戦をしないと進化が得られず、進化を止めれば退化が始まります。自身を原理原則で自律的にコントロールしながら挑戦することによって、自分の領域を拡張できると思います。前例を踏襲する人たちがばかりの組織は、機能も退化し

ていきます。常に課題意識を持ってその改善・改良に向けた挑戦をしていく人が会社には必要であり、大学はそのトレーニングに格好の場所だと思います。これだと思いう自分の課題に挑戦し、挑戦は次の課題を見つけるための必要なプロセスだということを学生の人たちには考えていてもらいたいですね」





研究の  
*Forefront of research*  
最前線

# 鍵を渡そう さあ 学生たちよ 世界へ通じる 窓を開こう

グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科 助教  
ムートン・ジスラン・フィリップ・ゴントラン  
(MOUTON GHISLAIN PHILIPPE GONTRAND)

専門は外国語教育、異文化間教育、フランス語教育。日本のアニメや漫画を楽しみながら日本語に親しみ、高校の第3外国語で日本語を選択。フランス国立リール第3大学大学院で日本学を専攻した。沖縄国際大、琉球大、沖縄大等の非常勤講師を経て、22年4月から現職。23年4月からは京都大学大学院博士後期課程で学ぶ。趣味は柔道とバスケットボール。日本に来て日本酒と温泉が好きになり、今も週2、3日のペースで銭湯に通う。

## 教科書の 「自文化」「他文化」 比較を研究

日本の大学でフランス語はどのように教えられているのか、ここ35年ほどの教科書の変遷を調べている。「日本での授業は長く『文法』『講読』が中心でしたが、1990年代になると『コミュニケーション・タイプアプローチ』（コミュニケーション能力の向上を重視した学習法及び教授法）が導入され、教科書も4技能（聞く・話す・読む・書く）をまとめたものへと変わってきました。この間に、教科書で日本とフランスの文化はどのように比較されて書かれているのか、例文を拾い上げ、データベースを作ろうとしています」

興味を覚えたのは、日本の教科書ではフランスに批判的な例文がほとんど見られないこと。「他国の教科書では『パリの街は汚い』といった文が少なからずありますが、日本ではむしろ『フランスのワインは日本のお酒よりおいしい』など、フランスを持ち上げるような記述が多い。こうした教科書で学んだ学生はフランスにどんな印象を持つのか、教員はどう考えているのか。様々な人にインタビューし、異文化間コミュニケーションがどのように形成されるのかを明らかにしたいと

考えています」。こうした研究は日本にはまだほとんどなく、その成果は次世代の教科書のヒントになると、教科書出版会社からも注目されているそう。



日本で使われているフランス語教育の教科書。出版会社の協力を得て、研究室には30年以上前のものから最新版までがそろう。

## 教室の外に学びの窓を

研究者として教科書に注目しているが、教員としては、学生がフランス語を学ぶには、教室で教科書を読むだけでは足りないと感じている。

「僕の授業は前期と後期各15回しかないので、教室の外でいかに学習するかが鍵です。だから授業では、日本語でフランス文化を紹介しているフランス人ユーザーやインスタグラマーがいること、スマホの翻訳機能を使えば簡単に発音チェックができることなどを紹介し、活用の仕方を教えています」

もともとICT（情報通信技術）スキルを生かす教材開発を研究しており、自らも動画を作ってはユーザーに上げていた。その腕を見込まれ、コロナ禍の3年間は、NHKのテレビフランス語講座にリモート出演している。「やるかどうかは学生次第ですが、異文化理解への窓を開ける鍵は、いろいろ渡したいと思っています」

最近うれしかったことは、フランスの大学で4週間の集中講義を受ける「サマープログラム」に今夏、様々な学部から9人の学生が参加したことだ。「4年ぶりの開催ということもあり、過去10年で最多の人数だったそうです。必修でもないのに1日5時間、4週間も勉強しに行きたいなんて相当なモチベーションですよ。観光や現地での買い物も積極的に楽しみ、自分の意見もしっかりと言っていました。引率しながら、いい経験になるプログラムだと実感しました。同社は留学生が多いことも影響しているのか、広い視野を持つている学生が多いように感じます」

## 異文化理解 好奇心こそ近道

自身が日本語に興味を持ったのは、柔道を習い始めた小学2年生の時。「ワザアリ（技あり）」「ユウコウ（有効）」。初めて耳にした言語の、音の響きに魅了された。日本のアニメや漫画に夢中になり、人気コミックのフランス語版と日本語版を読み比べて漢字を覚え、リアルな日本語会話を吸収した。「学校で日本語を学んだのは高校に入ってからだけど、日本語能力試験に受かったのは漫画のおかげ」と笑う。好奇心こそ、語学上達への近道。高校3年時には東京で2週間のホームステイをし、大学時代は約1年間、ワーキング

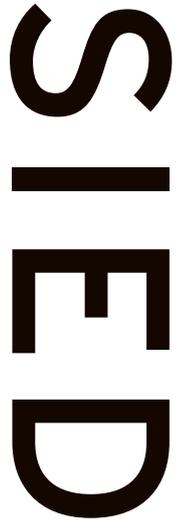
ホリデーで山梨県のブルワリー（ビール醸造所）で働いた。

「誰もフランス語どころか英語もしゃべらない土地で暮らし、働き、バスケットボールチームにも入っていたから毎日いろんな日本語を使わないといけないかった。おかげで次にコミュニケーションがとれるようになり、僕らと日本人には共通点が多いことにも気づけた。日本人は謙虚で必ずルールを守ると思っていたけど、審判が見ていないところであつと汚いプレーをする選手がいるのは世界共通。安心したよ（笑）」

研究でも授業でも、その根幹には、1人でも多くの学生に、より深く、しっかりとした異文化間コミュニケーションをとれるようになってほしいという思いがある。「フランスに対する漠然とした好印象は、ある研究者によれば『薄いガラスのようなもの』。すぐに破れてしまうものでもあります。だから学生には、ただフランス語の上達を目的にするのではなく、フランスだけでなく様々な国の言語、人、場所に対して、少しでも興味を持つてほしいですね」



# 海を越えた交流が 再び始まり 若者は伸びやかに 共感の輪を広げていく



SIEDとは

学生が主体となって国際交流イベントを企画・実施する国際センター留学生課の組織。本学のグローバル化推進と国籍を超えた相互理解の促進を目的として2013年10月、同課に組織された。現在は今出川校地に約30人、京田辺校地に約20人の学生スタッフ（外国人留学生含む）が在籍。国際交流ラウンジを拠点に、それぞれ多彩なイベントを発売に行っている。

長いコロナ禍を経て、同志社大学でも海外留学や研修、外国人留学生の受け入れが再び活発になってきた。コロナ禍を経て、国際交流のあり方の何が変わり、何が変わらないのか。様々な企画を通じて学生間の国際交流を推進しているSIEDを代表し、大谷さくらさん（今出川）と三輪玲以佳さん（京田辺）に活動内容や思いを語ってもらった。



文化情報学部3年次生  
三輪 玲以佳さん

商学部4年次生  
大谷 さくらさん

もともと人と何かをするのが大好き。高校3年生の時はコロナ禍でほとんど何もできなかったけれど、大学でSIEDのイベントに出会い、国際交流の面白さに惹かれて入りました。スタッフとして目指すのは、国籍を意識せず、「私たち」という一体感を生み出すこと。編み物が趣味で、かぎ針編みでカバンとポーチを作り、お弁当のおにぎり入れにしています。

国際交流をしたくて2年次生からSIEDのスタッフに。真面目で優しく、いろんな視点を持った理解のある人たちが集まっていると感じます。参加者に楽しんでもらうため、自分自身が楽しめるイベントをしようと心がけています。今は京都のまち歩きが楽しく、大学からの帰りに京都御所を通ったりしながら1時間ほど歩いています。特技の荷造りを生かし、早く海外に行きたい！

## SIEDではどんな活動を しているのですか？

**大谷**…国籍を問わず交流できるイベントのほかに、国際交流ラウンジを開放し、週3日は昼休みにおしゃべりしながら日本語や中国語、英語などを学ぶ「Lunch Talk」を運営しています。

**三輪**…京田辺も基本的に同じですが、「Lunch Talk」に当たるものとしては週1

回の「Speak Up」があります。特に言語は決めず、当日来た学生に自由におしゃべりを楽しんでもらっています。

**大谷**…代表を作らず、スタッフ全員で運営するのもSIEDの特徴です。企画は学期ごとの会議で全員がつずつ出し、少人数のグループを作って実行していきます。私が初めて企画したのは2021年12月の凧揚げ大会です。

**三輪**…私は趣味の編み物を生かし、夏を快適に過ごせるようにと今年の6月、布ぞうり

作りのイベントを企画しました。

## 活動を通じて意識や価値観に 変化はありましたか？

**大谷**…SIEDに入るまでは、したいことを人に話すのがなんだか怖くて、「自分でやってしまおう」と思いがちでした。人に頼ったり、いろんな留学生に声をかけたりすることで、自分の想像以上に物事が広がっていくことを学べたのはすごく大きいです。

**三輪**…企画のアイデアを出したときに、「それは無理」「じゃなく」「面白いね」と言ってくれたスタッフが多いんです。共感してもらえることが力になって、「一緒にやらない？」って、どんな外に働きかけていけるようになりました。

**大谷**…日本が一番安全だと言われているので海外に行くのを少し怖く思うこともあったんですが、留学生と話す中で、人の優しさや温かさはどこも一緒だと思えるようになりました。

**三輪**…留学生と話せば話すほど、本やネットだけでは分からない世界があることに気づかれますよね。

## コロナ禍を経て、 活動に変化はありますか？

**三輪**…どれだけ「デジタル世代」と言われても、やっぱり対面の方が気軽に話せますよね。

**大谷**…うん、うん。コロナ禍が収まってきて散

策系イベントはできたので、料理や宿泊イベントも卒業までにはしたいなと思っています。

**三輪**…イベント後のアンケートを見ても、文化に興味がある学生は多いですね。和文文化体験も人気のイベントで。京都にある同志社大学はその点、扇子の絵付け体験や嵐山散策など、日本の伝統や文化に触れられる機会が多いと思います。

**大谷**…前に留学生の友達や、同志社大学はいろんな国から多くの学生が来ていて人気が高いと言っていました。それに加えて、日本らしさを楽しめる場所にあることも選ばれる理由のように感じます。

## これからのSIEDに 期待することは？

**大谷**…同志社大学の学生みんなが留学生の友達を持つようになってほしいという理想があります。視野が広がるし、相手に配慮する気持ちも培われると思うので。留学生と関わる機会を作るための場所として、SIEDがみんなに知れ渡ってほしいです。

**三輪**…何かコンテンツを用意するのではなく、国際交流そのものに焦点を当てた大きなイベントをしてみたいです。国籍を問わず、みんな同志社大学の学生なんだっていうところが輪を広げて、いろいろできたら楽しいだろうなと思っています。



様々な企画を通じ、全ての学生が交流を深め合うSIED。参加者みんなが楽しめるイベントにするには、「自分自身が楽しめる企画であることが一番大事」と二人は口をそろえる。文化や風習が違ってても、真っすぐな気持ちは相手に届き、共鳴し合う。コロナ禍での経験は、リアルで出会うこと、一緒に笑い合う大切さを改めて思い起こす機会となった。



DOSHISHA DNA

【ビジネスパーソン】

## 日本の美容家電を 世界に届ける

「グローバル・コミュニケーション学部」にチャレンジしようと思った時、実は英語は全く話せませんでした」  
現在、パナソニック海外マーケティング本部で世界を舞台に活躍する小原歩南美さんはそう振り返る。  
大学での学びや気付きは、今の仕事にどう生かされているのか。話を聞いた。

「やって、学んで、次に生かす」

小原さんの所属する海外マーケティング本部は、「家電部門の世界への情報発信本部」と位置付けられている。「入社以来、個人向け美容家電の海外向けプロモーションを担当しています。WebやSNSで発信する動画などのコンテンツ制作、新商品を売り出すためのマーケティング活動の推進、海外のインフルエンサーを使ったPRなどを行っています」

1年目から仕事を任せてもらえる部署で、動画の構成を考えたり、制作会社と打ち合わせをしたりと、担当業務は多い。「最初のうちは、分からないことが多くて失敗もありましたが、「やって、学んで、次に生かす」という感じでした」

海外との打ち合わせも多い。現地会社の販促・営業スタッフや国内の商品開発担当者らがオンライン会議で集まり、まずはプロモーションの方向性を決める。その後、小原さんが現地担当者らと1対1で詳細を話していく。

例えば、新商品を売り出す場合、市場や消費者の動向、顧客が何を求めているかなどのマーケティング調査を行い、その結果をもとに宣伝用の動画を作る。しかし、作った動画を現地担当者にプレゼンしてみると、「この服の色では顔色が悪く見える」「モデルのカメラ目線の笑顔に違和感がある」といった思いもよらない指摘を受けることがあるのだという。「細かな価値観や文化の違いに気付かないと、現地の感覚とズレたものになってしまう。意思疎通は大事ですね。入社1、2年目はコミュニケーションに苦労しました」

留学で気付いた、日本の良さと強さ

入社4年目の小原さん。1年目は電動歯ブラシ、2年目からはドライヤーやヘアアイロンなどを担当する。どれも身

パナソニック株式会社  
海外マーケティング本部

こはら ほなみ  
小原 歩南美さん

2020年にグローバル・コミュニケーション学部を卒業してパナソニックに入社。マーケティング・コミュニケーション部で宣伝部門を担当する。学生時代の経験が、同社が経営理念とする「事業活動を通じて、世界中の人々のくらしの向上と社会の発展に貢献する」という考え方と結びつき、入社を決意した。

近で日常生活に密着した商品だ。

「入社時の志望動機は、海外で働きたいというより、「優れた日本の商品を海外に届けて、人々の暮らしを豊かにし、同時に、海外での日本の存在感を大きくしていきたい」というものでした」。こうした、日本に軸足を置いた考え方をするようになったのは、学生時代の留学がきっかけだったという。

留学先のカナダは、予想以上に「多国籍」で、韓国、中国、インド、メキシコと様々な国の留学生が周りにいた。このような環境に身を置き、相手にとって日本は「異文化」なのだという、当たり前のごとくに気付かされたという。「異文化と触れ合う機会が多い学部だったので、海外も視野に入れて働きたいと思っていました。そんな時に留学して、改めて日本の良さ、強さに気付かされたんです」



カナダでは、「異文化」である日本食が浸透し、愛されていた。「留学中、お寿司を提供するボランティアをした時の反応も良かったです。食に限らず、日本の商品を通して日本の強さを発信できるんじゃないかと、日々感じるようになりました。その思いを叶えられる仕事に就けて、ありがたいと思っています」

## 徹底したコミュニケーションが生む信頼関係

「異文化に対する柔軟性、対応力、理解力は、大学時代の経験で育まれたのかなと思います」と話す小原さん。現地スタッフとのやり取りでも、「意見が違うのが当たり前」と思ってた前向きに取り組んでいる。大事にしているのが、「徹底したコミュニケーション」だ。

「お互いの目標地点は同じでも、途中のコミュニケーションが足りないと、ぶつかるとも多くなります。相手を理解しようとする、相手も私を理解しようとしてくれます。これを続けると、自然に信頼関係を築くことができます」。海外との往来も復活。小原さんも、昨年夏以降、ドイツ、アメリカ、カナダに出張した。「現地からもスタッフが頻繁に来日しています。やっぱり、相手の顔を見ながら議論するのは、コミュニケーションの取りやすさが違うし、議論も活性化しますね」。会えない時は、現地スタッフと密にチャットでやりとりするなど、常に深い議論ができる環境づくりを心がけているという。



## 心の動きに素直に従って、挑戦してみる

常に前向きで、自分の性格を「挑戦するタイプ」と分析する。それを意識するようになったのは高校の部活動、ダンス部だ。全国大会優勝の常連校。ダンス部に入りたくて入学を決めた。中高一貫の強豪校で中学から続けている部員も多い。高校から入って、うまくいかないこともあった。「3年間やりきった時、挑戦を決めた自分に感謝しました。失敗しても、それ以上に得られるものがある。英語の全く話せない私が、グローバル・コミュニケーション学部でチャレンジしようと思えたのも、この経験のおかげです」

学部には、豊富なゼミ、留学、外国に駐在する先輩訪問など、様々な経験ができる機会が用意されている。だが、それを生かし切るのにはなかなか難しい。「誰しも、『ちょっと興味あること』ってあると思うんです。少しでも興味を持ったら、その気持ちに素直に従って、とりあえずやってみたらいいのでは。ダメなら、次のことをやったらいいのですから」。学びの環境、成長のチャンスを生かせるかどうかは、自分次第。挑戦しないと始まらない、何事も。



## 今年度就職活動をした先輩からのメッセージ

〔2023年度 就職活動に関するアンケート〕から

## 文学部

困ったことがあればキャリアセンターを利用して、効率よく就活するのがおすすめです！

## 文学部

就職活動を終えてみて、凄いガクチカや難関資格よりも、自身の経験に基づく熱意をしっかり伝えることが大切であると強く感じました。自分が熱意をもてそうなことを見つけるために、たくさん行動してみてください。応援しています。

## 文学部

就職活動を始めた当初は知名度のある企業を中心にすることが多いと思いますが、それを支えている中小企業にも魅力的な企業は沢山あると思います。また、この業界は自分に合わないといった決めつけをするのではなく、幅広く見ていくことが重要だと感じました。比較材料が多い方が、自分がしたいことを明確に見つけることができると思います。

## 社会学部

視野を広くもってください。自分がやりたい仕事は思った以上に色々な業界・職種で幅広い形で携わることができます。

## 法学部

キャリアセンターは本当に活用すべき。困ったことがあったら気軽に行った方がいい。大学によってホスピタリティーがピンキリらしいけれど同志社のキャリアセンターの方は、今思えばそんなことで相談に行くなよというような些細な悩みにもとても親切に相談に乗ってくれた。

## 経済学部

早めに行動をすることと自分1人で進めようとしなさいことだと思います。エントリーシートを出す際や面接前に、第三者に自分を見てもらうことはとても重要だと感じました。

## 経済学部

会社に入ってギャップを感じないように企業分析をしっかり行ったあと、自分の気持ちに素直になり、将来どようになっていきたいか具体的にイメージしてから就活の軸を早めに決めておくの良いと思います。

## 商学部

就職活動は、私の中では大学生活において1番辛いと感じた期間でした。しかし、それと同時にこれまでの自分を振り返り、自己PRを作成したり、ガクチカを作成する中で自分の強みは何だろう、自分は将来どのように生きていきたいのだろうと改めて考える機会が増え、より納得する就活に向けて取り組むことができたと考えています。誰しもが不安になったり、友達と比べてしまう瞬間があると思いますが、自分の人生なので周りとは比べず自分のペースで取り組むのが1番だと思います。

## 商学部

無理に早くから始める必要はないと思いますが、早くやればやるほど効率よく就職活動を進めることができるに違いないと実感しました。自己分析を早いうちから大まかにでも考えておくことが大切だと思います。

## 政策学部

初めから完璧を目指すのではなく、何回も面接やグループディスカッションに参加し、回数を重ねて慣れることが大切だと思います。また、第一志望であっても過度に緊張せず、落ちて大丈夫というくらい前向きに臨むことも必要だと感じました。

## 政策学部

私は公務員試験対策を大学2年次生の2月ごろから始めました。早め早めの行動は、後々良い結果につながると思います！自己分析、業界研究など、大変なことも多くありますが、頑張ってください。

## 文化情報学部

とにかく色々な分野を見て、知って、自分の就活軸を確立させると就活が進みやすいと思います。焦らず頑張ってください！

## 理工学部

夏や冬に行われる様々なインターンシップに参加し、就職活動の視野を広げるべきだと考えます。また、自分の志望する業界や会社でもインターンシップに参加し、様々な会社を比較検討したほうがより良い就職活動ができると思います。

## 理工学研究科

いきなり自分の将来やりたいことを見つけるのは大変かもしれませんが、そういう時は一度様々な企業を見てみるのも一つの手です。いろいろな説明会やインターンを経験することで企業の知らなかった一面を知れて、自分のやりたいこと、やってみたいことが見えてくると思います。応援しています。

## 生命医科学部

とにかく就活を諦めずに、少しでも早い時期から始めておくべきです。自分は3年夏のインターンで2社応募しましたが、面接対策を一切やらずに落ちてしまい、すぐ後悔しました。インターンは選考有利になったりするので、夏冬問わず複数社行った方がいいと思います。

## スポーツ健康科学部

就職活動は長丁場なので、一喜一憂せずに望むのがいいと思います。色んな人にESや面接練習をお願いし、またOB・OG訪問をして「働く」ということに対する自分のイメージを持っておくといいと思います。そうすると、自分の中の譲れない部分が見えてくるので、それを中心に企業選びをすると、自分に合った企業が出てくると思います。頑張ってください！

## 心理学部

とにかく早く始めることが大事です。油断せずに、できるだけ多くの企業を受けて、要領を掴んでいくといいと思います。初めての面接が第一希望の企業になってしまわないように、色々な企業を受けて練習した方が絶対良いです！

## グローバル地域文化学部

就職活動はかなり辛いことも多いですが、何かしら行動し続けていれば、結果が少しずつ出てきます。何事もプラスに捉える楽しむというマインドで、家族、友達に頼りながら、たまにはリフレッシュしながら、頑張ってください！

開催する  
主な支援プログラム

こちらに掲載していないプログラムもあります。詳細は、キャリアセンターホームページ、キャリア支援システム「e-career」、キャリアセンター掲示板を随時確認してください。

キャリアセンター  
ホームページ

[e-career]



プログラム名	開催時期
就職ガイダンス	9月、12月
エントリーシートワークショップ	2023年10月～2024年7月(毎月複数回開催)
面接ワークショップ	2023年10月～2024年7月(毎月複数回開催)
グループディスカッションワークショップ	2023年10月～2024年7月(毎月複数回開催)
企業セミナー／学内企業説明会	2023年9月26日～29日 2023年11月11日～22日 2024年2月6日～22日
内定者座談会	10月～12月
公務員・公立学校教員業務説明会	12月

3年次生・大学院1年次生  
向け特設ページ過去に開催した  
セミナー・ガイダンスの  
動画配信画面

※動画配信を行っていないセミナーもあります。

個別相談について  
(対面・Web・電話)

キャリアセンターでは、経験豊かなキャリアアドバイザーやキャリアセンタースタッフが、進路や就職活動に関する悩みや疑問等の相談に対応します。相談方法は、対面・Web・電話から選択できます。相談を希望の場合は、[e-career]から予約してください。

# 【来年度就職を目指す皆さんへ】

## 納得のいく就職に向けて

来年度の就職を目指す皆さんが気になるのは、数年続いたコロナ禍や、昨今のインフレ、円安等が自分たちの就職活動にどう影響するのかなどだと思います。この点については、悲観しすぎる必要はありません。日本国内では労働人口が減少し続けていることから、採用に熱心な企業が多くあります。また、コロナ禍等で業績が悪化する企業がある一方で、業績を伸ばしている業界・企業もあります。

大切なことは、「早めの準備と幅広い視点を持つ」「あきらめず粘り強く取り組む」「自分で考えて決める」の3点です。

キャリアセンターでは、様々な就職支援プログラムや個別相談で皆さんの就職活動をサポートしています。就職活動は情報戦です。キャリアセンターを積極的に活用しましょう。

## 就職を取り巻く状況と キャリアセンターの支援について

ここからは、本学の現4年次生・大学院2年次生の就職活動の状況と、キャリアセンターが実施する現3年次生・大学院1年次生向けの就職活動支援について説明します。

## 現4年次生・ 大学院2年次生の状況について

現4年次生・大学院2年次生である2024年4月採用の就職活動は、前年と同様に、企業の採用活動のうち、広報活動が「3年次生の3月」から、選考活動が「4年次生の6月」から開始のスケジュールとなりましたが、この日程によらない企業も多数あり、採用活動は全体として早期化しました。また、コロナ禍による採用意欲の停滞からの反動で、一転して採用意欲が回復しました。多くの企業では、インターンシップや説明会、面接等の採用活動がオンラインで実施されましたが、最終面接等の局面では対面で実施する企業もありました。

キャリアセンターでも、このような就職活動の動きに対応するため、昨年3月のキャリアガイダンスを皮切りに、新規を含む様々な支援プログラムを開催しました。就職ガイダンスや企業セミナー、個別相談等はオンラインでも行い、実家や遠方にいる学生も参加できました。

また、業界・企業理解を深めるために、今年2月に、約420社が参加するオンラインの学内企業説明会を開催し、説明会の内容はオンデマンドでも配信しました。OB・OGに参加いただいた企業も100社以上あり、後輩へのアドバイス等をいただきました。

就職活動中の学生を支援するため、今年の5月下旬以降学内で選考会を実施する企業採用選考会をオンラインで定期的に開催し、採用継続中の企業の求人情報を積極的に提供する等の支援を行っています。

## 現3年次生・大学院1年次生 向けの就職支援について

就職活動の早期化・長期化、採用に直結したインターンシップが増えている現状に対応するため、新3年次生対象のガイダンスを3月中旬～下旬に実施しました。学業の優先を前提としつつ、就職活動への早期からの準備を促し、インターンシップ参加に向けてのエントリーシート・面接対策等のセミナーを実施、学生の積極的な挑戦を後押ししました。

また、学生の活動開始時期が多様化していることから、1年間を3つの時期に分け、各時期に、ガイダンス、セミナー、ワークショップ等を開催、学生が就職活動をいつから始めても対応できるように、必要な知識やスキルが身に付く体系的なパッケージを用意しています。各プログラムはオンラインで開催し、キャリアセンターホームページ上でオンデマンド配信も行っているため、いつでも視聴できるようになっています。

また、就職活動の早期化に伴い、インターンシップの重要性が高まっているため、有力企業に協力いただき、夏期休暇中に、同志社大学の学生の参加枠を設けた同志社生限定インターンシップ・仕事研究プログラムも開催しました。

就職を取り巻く環境が変化していますが、就職環境の良し悪しにかかわらず、皆さんが企業にアピールすべきことは、主に、根拠に裏付けられた皆さんの強みと企業への熱意の2点です。また、皆さんが知っている大手企業や有名企業の多くは、就職環境に関係なく、常に「厳選採用」であることを覚えておいてください。大手企業や有名企業には、全国から何千、何万人もの学生からのエントリーがありますので、全員が面接選考までたどり着くことはできません。まずは、エントリーシートで自身をアピールすることが重要です。キャリアセンターで実施するエントリーシートセミナーに参加し、自分らしいエントリーシートの書き方を身に付けてください。

企業理解を深める企業セミナーを今年度は9月から開催しており、11月には約100社、来年2月には約300社の企業を招聘する予定です。ここ数年はオンラインのみでの開催でしたが、今年からは対面開催も徐々に復活させる予定です。学外で開催される合同説明会と異なり、学内企業説明会は、同志社大学生だけのために多くの企業が参加いただける点が大きな魅力です。現時点で興味がある業界・企業だけではなく、幅広い業界を見て比較し、職業選択の幅をできるだけ広げてください。

特に、皆さんが知っている企業は、一般消費者向けのビジネスを展開するBtoCの企業が多いですが、日本には、企業向けのビジネスを展開するBtoBの企業が数多く存在します。BtoBの企業の中には、世界でトップシェアを誇るような企業が数多くあります。知らない企業でも、ぜひ積極的に情報収集をしてください。

キャリアセンターでは、皆さんからの個別の相談にも対応しています。相談というと身構えてしまうかもしれませんが、就職活動について話を聞いてほしい、考えを整理したいので誰かと話したいといった

際にも気軽に利用してください。多くの先輩たちも、就職活動の進め方や、エントリーシートの書き方等様々な相談をしています。

就職活動では、一見すると明確な数値や基準のない中で採用・不採用が決まります。自信をもって提出したエントリーシートや履歴書が通過しない時や、手ごたえがあった面接が不合格だった時は、自分自身を否定されたような気持ちになるかもしれません。落ち込んだ時は、一人で悩まずにキャリアセンターを大いに頼ってください。

## 企業の求める人材

経団連が実施したアンケート（「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」2022年1月18日）によると、企業が新卒採用時に期待する資質の1位は、「主体性」です。2位以下には、「チームワーク・リーダーシップ・協調性」、「実行力」が続きます。企業が新卒の学生に求める力は、「自ら主体的に行動し、周囲を巻き込みながら、実行する力」と集約できるでしょう。

オンラインによるコミュニケーションは、直接対面で話すのとは異なる難しさがあります。これまで以上に相手の意見を傾聴し、そのうえで自分の意見を伝えることが重要です。オンライン面接では、通信が途中で途切れてしまう、音声聞きづらい、カメラが機能しない等、様々な問題が起こり、面接の緊張感が加わって、パニックになった学生もいました。トラブルを未然に防ぎ、万が一トラブルが起こった時にも落ち着いて対応できるよう、事前にPC操作に習熟しておく等の準備をしておいてください。

また、リモートワークが増えたことで、職場で仕事をしている時よりも仕事の全体像が見えにくい状態にあります。指示を待つだけの受動的な姿勢では、業務に支障が生じることがあります。これからの社会人は、これまで以上に主体的に課題を発見して、対策を考え、解決に向け挑戦し、業務を遂行する力が求められます。

## 最後に

採用選考の過程では、学生時代に力を注いだエピソードを通じて、皆さんがどのような状況でどのように考え、どのように行動したのかが問われます。しかし、コロナ禍の影響で、サークル活動、ボランティアやアルバイトが大きく制限された学生も多く、何をどのように伝えるのが難しくなっています。

大切なのは、何らかの目標を達成したという結果ではありません。目標を達成するまでにどのような努力をしたのかというプロセスを具体的に明確に伝えることが重要です。プロセスの中に、皆さんの強み、人間性、価値観、能力等が表れるからです。

「早めの準備と幅広い視点を持つ」「あきらめず粘り強く取り組む」「自分で考えて決める」の3点を意識しながら、自分を信じて前向きに就職活動に取り組んでください。



# 同志社校友会

Doshisha Alumni Association

同志社校友会 Doshisha Alumni Associationは、同志社設立10年後の1885年に「アルムニ会」として発足したのが、始まりです。主な目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じて学生をサポートすることです。現在、約36万人の会員となり、国内はもとより、各国にも支部があります。

同志社校友会 会長 松岡 敬



## TOPIC

2020年春からコロナ禍で、経済的に困窮している学生支援のため、同志社大学と連携して2020年5月から6月にかけて商店街やスーパーで利用できる食生活応援クーポンを配布し一人暮らしの食生活サポートを行う事ができました。

その後も、「同志社校友会ランチプロジェクト」を立ち上げ、学内の食堂において、200円の補助をすることで、学生の経済的な負担を軽減するとともに、安定した食生活ができるようにしています。

2022年12月には累積で約33万人の支援ができました。

学生アンケートでは、感謝の声に加えて、「私も将来就職して社会的地位を上げて、このように後輩たちをぜひ支援したいと強く感じました」という声も寄せられ、支援の有益性を全国の校友と共有させていただきました。

今後も、様々な学生への支援を継続し、充実した学生生活を送ってもらえるよう対応してまいります。



▲同志社校友会ランチプロジェクト



▼学生アンケート



## 同志社校友会 活動の概要

### ① 卒業生とつながる

2023年8月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し、同志社校友会本部と連携しながら活動を行っています。「地元へ転職をしたい」「転職になって慣れない土地で生活するのが不安」「海外での勤務は家族も心配している」など、社会に出てから課題を抱える卒業生に対して、現地の校友がサポートをしています。



詳しくは  
同志社校友会  
ホームページへ▶▶▶



### ② 大学とつながる

同志社大学と連携した学生へのサポート活動を行っています。同志社大学が掲げる「VISION 2025」の推進を目的とした「リーダー育成事業支援」、「グローバル人材育成」への支援やその財源となる「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の活動支援、同志社フェアなどのイベントを通じた大学のプレゼンス向上のための「同志社ゆかりの地連携支援」などを行っています。



### ③ 学生を支える

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。

同志社校友会本部事務局

TEL : 075-251-4393

E-mail : info00@doshisha-alumni.org

## クリスマス・イルミネーション点灯式



2022年度の様子

アドベントを前に各地でクリスマス・イルミネーションが灯り始めるころ、同志社大学でも点灯式を催しています。

京都の冬の風物詩として広く親しまれている今出川校地の点灯式では、西門に入って北側に広がる、彰栄館・同志社礼拝堂・良心館に囲まれたサンクタスコートのヒマラヤスギに

約16,000個のLED電球が灯ります。

京田辺校地では、3代目となる2019年に植えられたヒマラヤスギに約6,500個のLED電球が灯ります。正門を入ってすぐの同志社ローム記念館前にあるため学外からも望むことができ、キャンパスのシンボルとなっています。

### 今出川校地

11月22日(水) 17:15~(予定)  
西門北側サンクタスコート ヒマラヤスギ周辺

### 京田辺校地

11月24日(金) 16:45~(予定)  
同志社ローム記念館前

※都合により、変更になる場合があります。ご了承ください。

## 第148回 同志社EVE 「今を紡ぐ、人を結ぶ」

同志社EVEは、毎年11月29日の創立記念日を祝う行事として、同志社大学生によって創り上げられてきました。毎年11月1日から28日までを「EVE期間」、11月26日から28日までを「EVE出店期間」としています。過去3年間は新型コロナウイルスの影響で制限がありましたが、今年度は制限を緩和し、学外の人々の参加も可能としました。

同志社EVEの理念である「学生の自主管理・自主運営」と「団体の活動の発露の場」を尊重し、学校の団体活動を広く知って頂く機会としています。今年度の完全対面開催は、将来の発展に向けたステップであり、多くの人々に希望を提供する創立記念行事となることを願っています。11月26日~28日、当日のご来場を今出川校地でお待ちしています。



第148回 同志社EVE公式HP  
<https://doshisha-eve.com/>



今を紡ぐ、人を結ぶ  
148th 同志社 EVE



# 「ゼミで学ぶ 魅力を語る」

幅広い領域の専攻から数多くのゼミがある本学。

それぞれ、どんなことを学んでいるのか。

ゼミ教員が、個性豊かなゼミの魅力を語ります。

## 「神学×現代社会の課題」



神学部  
准教授

きたに かなん  
木谷 佳楠 ゼミ

Kitani Kanan

私が専門とする実践神学という学問には、牧師の養成を行うという側面と、教会と社会との関わりについてどのように see (見て)、judge (判断して)、act (行動する)べきなのかを模索するという側面があります。時代の移り変わりに即して、「現代社会」における課題も変化しますので、ゼミで学ぶ内容は4～5年のサイクルで変更されています。今のサイクルでは特に、神学・宗教と環境問題について学んでいます。

各学期、先行研究レビューを一人一回発表し、学期末には「研究の問い」を設定したグループ発表を行います。グループでの発表にすることによって、上級生が下級生に参考文献の書式や脚注の付け方を教えるシステムになっています。

2023年度の発表には、ネイティブ・アメリカンに対する環境レイシズムと保守派キリスト教の関係性についての発表や、昆虫食や培養肉は食物規定がある宗教ではどのように扱わ

れるのかなど、気候変動によって変化する食文化と宗教について論じる発表がありました。13人いる今年のゼミは、皆さんが自分の意見を持って積極的に発言してくださるので、教員としてはありがたいメンバーが揃っています。

## ゼミ生の声

「春学期は環境問題×宗教をテーマとしたゼミでした。中間は個人、そして期末ではグループで発表を行うので、尊敬する先輩や友人から良い刺激を受けつつ、自分の研究を深めることができる活気溢れるゼミです。楽しいゼミ合宿もあります。」  
「コーヒーが飲めるゼミ」「自分の普段の何気ない行動(特に消費行動)がどのように環境破壊や格差、差別につながっているのかを、宗教という、特に日本人からすれば思いがけない視点や考え方の枠組みを用いながら考えられるゼミ」など。

## 学びについて学び合う



社会学部  
教授

こじま あきら  
兒島 明 ゼミ

Kojima Akira

私のゼミでは、国境を越える移動のなかで人はどのように育ち、学び、働き、次世代の育成に携わるのかについて、移動の多様性に目配りしながら探究していきます。

ゼミでは何よりも主体的な学びと他者との学び合いを重視しています。「人の移動と教育」を大きなテーマとしながら、3年次の春学期には3～4名程度のグループごとに説明すべき課題を設定し、関連文献リストを作成したうえで文献を読み進め、発表およびディスカッションを行います。

秋学期には、課題の解明に向けて調査を実施し、成果を発表したうえで報告書にまとめます。これまでに、「帰国子女の人間形成―母親の経験と選択との関連性」「在日中国人留学生が抱える問題―劇本殺」を背景に「学校コミュニティ内における母語教育」「父親アイデンティティの獲得まで」などのテーマでグループワークが実施されました。4年次には、グループワークを通して深まった問題や関

心に基づいて、各自、卒業論文に取り組んでいきます。他者と隔たりをつくるのではなく、豊かな出会いや出会い直しを可能にする学びを学生とともに模索し続けています。

## ゼミ生の声(嶋田朱里さん)

今学期に私のグループは、「アイデンティティ」をテーマに文献調査を行いました。同じゼミに所属する学生でも、それぞれが持つ背景や経験は様々です。ゼミ生同士のディスカッションを通して、新たな視点を学ぶことができました。また、「外国にルーツを持つ子どもたちの居場所づくり」の活動に参加し、子どもたちと向き合い、実体験を通して学ぶことの重要性に気付きました。様々な人との出会いが、自分を見つめ直し、考えを深めることに繋がるのだと、ゼミでの学びを通して実感しています。

# learning objects of Seminars



心理学部  
教授

こうやま たかや  
神山 貴弥 ゼミ

Kouyama Takaya

## 子どもが学校に適應するための 支援方法を探究する

私のゼミのテーマの柱は、子どもが学校に適應するための支援方法を探究することです。不登校になつたり非行に走つたりと不適応を起こした子どもに対するケアが必要であることは言うまでもありません。しかし一方で、このような

いと私自身も強く思っています。したがって、私の専門である教育心理学分野以外の研究テーマで卒論研究を進める学生たちも多く、そうした学生が半数以上になる年もあります。

不適応状態に陥らないために学校環境を整えたり、子どもの社会的能力を高めたり、不適応状態に陥りそうな子どもに対する予防的な支援を行つたりすることも重要です。私のゼミでは、こうした問題意識のもと学校適應に関わる研究を進める学生たちがいます。

また心理学部の方針でもあるのですが、私のゼミでは卒論研究をグループで行うことを推奨しています。グループで研究を行う上では、葛藤を起こす場面もあり、折り合いをつけながら進める必要がある一方で、協力したり触発したりすることができる良さもあります。こうして切磋琢磨する中で、

一方、ゼミでは学生たちの自主性を重んじており、他のテーマで研究を進めることも認めています。卒論研究は、学部での学びの集大成として位置づけられます

社会的な能力を身につけてほしいと願って、日々ゼミでの指導・支援を行っています。

ので、自分が興味・関心をもつテーマについて追究してもらいた



理工学部  
准教授

たはら よしろう  
田原 義朗 ゼミ

Tahara Yoshiro

## 生物化学工学による DDS

私は理工学部化学システム創成工学科で、同学科の松本道明教授と共に生物化学工学研究室を主宰しています。当学科では学部3年次までに化学工学の基礎を学習し、化学的な現象の定量的な理解を深めます。その後、4年次に研究室に配属され、そ

れぞれの先生のもとで専門的な研究を行います。学部3年次の生物化学工学という授業では、実社会でも役立つというアミノ酸や抗生物質など、生物によつて生産される物質をプロセスとして合理的に製造するために必要な基礎知識を学習します。この中でも本質的に重要なことは化学工学の定量的な理論であり、それを生物学的な現象に適用する場合でも基本的な戦略や方法論は共通であることがわかります。4年次の研究で対象が変わっても同様で、私の研究グループでは新しいゲルやエマルションを使って体内への薬の吸収や分布を

### ゼミ生の声

「本研究室は、主に環境人体に焦点を当てた研究を行っていますので、比較的生物に興味をもつた学生が多数入っている印象があります！」

「私はがん治療の副作用である口内炎を治療する創傷治療剤の開発に取り組んでいます。動物実験やリリース実験を行い、化学工学的アプローチから評価をしています。先生のサポートと学部生時代の知識が、新たな発見と自己成長を支えていると感じます」



- 2023年度 -  
卒業式・学位授与式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
3月20日 (水・祝)	10:00 文学部・文学研究科	栄光館
	12:30 法学部・法学研究科	
	15:00 神学部・神学研究科、政策学部・総合政策科学研究科、司法研究科、ビジネス研究科	
3月21日 (木)	10:00 社会学部・社会学研究科、グローバル地域文化学部、国際教育インスティテュート、グローバル・スタディーズ研究科	栄光館
	12:30 商学部・商学研究科	
	15:00 経済学部・経済学研究科	
3月22日 (金)	10:00 理工学部・理工学研究科	京田辺校地 デバイス 記念館
	13:00 文化情報学部・文化情報学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、脳科学研究科	

- 2024年度 -  
入学式 (学部・大学院)

日時	学部・研究科	場所
3月20日 (水・祝)	9:30 法学部・法学研究科、経済学部・経済学研究科	京田辺校地 デバイス 記念館
	11:30 神学部・神学研究科、政策学部・総合政策科学研究科、理工学部・理工学研究科、グローバル地域文化学部、脳科学研究科	
4月1日 (月)	13:30 文学部・文学研究科、社会学部・社会学研究科、文化情報学部・文化情報学研究科、心理学部・心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科	京田辺校地 デバイス 記念館
	15:30 商学部・商学研究科、生命医科学部・生命医科学研究科、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科、グローバル・コミュニケーション学部、司法研究科、ビジネス研究科、国際教育インスティテュート	

マイクロストーリーから読む  
越境の動態

王柳蘭 他編著 国際書院 3,850円

スポーツと運動の  
バイオメカニクス

若原卓 他訳  
メディカル・サイエンス・インターナショナル  
9,350円

マーケティングの力

高橋広行 富田健司 石田大典 他著  
有斐閣 2,970円

習近平の軍事戦略

浅野亮 他著 芙蓉書房出版 2,970円

北欧の教育再発見

見原礼子 他著 明石書店 2,420円

労働六法 2023

土田道夫 他著 旬報社 6,050円

世界経済論 第2版

遠藤敏幸 他著  
ミネルヴァ書房 3,300円

ベーシック条約集 2023年版

浅田正彦 他編 東信堂 2,860円

個別化する  
現代日本企業の雇用関係

三吉勉 著 ミネルヴァ書房 6,600円

食の展望

佐伯順子 他著  
農山漁村文化協会 5,940円

フィア・シネマ

菅野優香 著  
フィルムアート社 3,080円

モンゴル帝国と海域世界  
12~14世紀

向正樹 他著 岩波書店 3,520円

法の理論 41

荻野奈緒 浅野有紀 他著  
成文堂 4,620円

国際政治学をつかむ 第3版

村田晃嗣 他著  
有斐閣 2,420円

金融機関の私企業性と公益性

川口恭弘 著 有斐閣 7,700円

つなぐ世界史 1 古代・中世

向正樹 他著 清水書院 2,530円

創造する経営学

福本俊樹 他著 文真堂 1,870円

アフリカを学ぶ人のために

峯陽一 他著 世界思想社 2,750円

民法の基礎2 物権 第3版

佐久間毅 著 有斐閣 2,750円

行政法の基本 第8版

佐伯彰洋 他著  
法律文化社 2,970円

基本刑法II 各論 第3版

十河太朗 他著  
日本評論社 3,740円

行政は誰のためにあるのか

真山達志 著  
日本経済評論社 3,300円

保健医療と福祉 第2版

野村裕美 他著  
ミネルヴァ書房 2,860円

債権総論・契約総論 第2版

上田誠一郎 編 上田誠一郎 他著  
法律文化社 3,080円

ユーラシアの自画像

鈴木絢女 他編著  
PHP研究所 2,090円

科学技術の  
リスクコミュニケーション

中谷内一也 他著  
国立国会図書館

開発協力の  
オーラル・ヒストリー

峯陽一 著  
東京大学出版会 6,050円

日本は本当に戦争に  
備えるのですか？

岡野八代 三牧聖子 他著  
大月書店 1,650円

報告書 地蔵祠・地藏盆は今

佐藤守弘 佐野明子 竹内幸絵 他著  
「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」  
同志社大学 SDGs 研究プロジェクト  
京都の「地蔵祠」から学ぶ持続可能な  
地域コミュニティのあり方に関する研究

国際秩序の動揺と  
米国のグローバル・  
リーダーシップの行方

飯田健 他著  
日本国際問題研究所

計量経済学のための統計学

岩澤政宗 著 日本評論社 2,200円

戦後京都の「色」は  
アメリカにあった! 増補新版

佐藤守弘 他著 小さ子社 2,420円

改革が作ったアメリカ

白川恵子 他著 小鳥遊書房 3,740円

18歳からはじめる民法  
第5版

野々村和喜 他著  
法律文化社 2,420円

本学教員の  
執筆図書紹介

(価格は税込み)

ブリッジブック  
法システム入門 第5版

武蔵勝宏 他著  
信山社出版 2,970円

新プレミアム民法 5  
家族法 第3版

神谷遊 他著  
法律文化社 2,750円

現代流通事典 第3版

崔容燾 他著 白桃書房 3,400円

モネからリヒターへ

清水穰 他著 ポーラ美術館

京田辺市史 資料編  
第3巻 近代・現代資料

小林丈広 他著 京田辺市

スポーツ白書 2023

河西正博 庄子博人  
遠藤華英 他著  
笹川スポーツ財団 4,180円

# 同志社人

# 訪問



「好き」を仕事にできたら、人生は楽しいーでも、そのためにはどれほど「好き」なのか、その熱量が問題なのではないでしょうか。サークル「同志社大学拉麵研究会」の初代会長にして、現在、各方面から注目を集めている「麦の夜明け」の店主・伊藤聡孝さんに、後輩たちがインタビューしました。

今回の同志社人 「麦の夜明け」店主

伊藤 聡孝さん (左から2人目)

1994年、兵庫県生まれ。2016年、政策学部卒業。2年次生の時、サークル「同志社大学拉麵研究会」を設立、初代会長に就任。京都の名店「らーめん鶴武者」でアルバイトをするとともに、同じく名店「麵屋裕」から教えを受ける。卒業後、日本製粉株式会社(現・ニッポン)に入社。東京本社営業部に所属し、業務用小麦粉の営業活動に従事。傍らラーメンの研究を続け、21年退社。1年の準備期間を経て、22年2月、「麦の夜明け」をオープン。同10月、ミシュラン「ビブグルマン」に掲載。ラーメン部門では最年少。



「かつこいいい大人」に出会った、修業時代

杉本：伊藤さんは僕ら「同志社大学拉麵研究会」の初代会長です。このサークルを設立した目的から教えてください。

伊藤：それはもう、ラーメンを作りたいから。これに尽きます。そして、それを同志社EVEで売りたい。自己満足じゃなく、自分のラーメンがどれくらい通用するか試したかったです。その当時、食へ歩きサークル的なものはあったんですが、食べるだけならもう1年次生の時、1年間で500食くらい食べてましたから。

田島：いくら何でも食べ過ぎです！ ラーメン好きにも程がある…。

伊藤：どうかしてますよね(笑)。小学生の頃に明星食品の「中華三昧」という高級袋麺を食べたのが、ラーメンにはまってきたきっかけです。中学、高校とラーメンとともに成長してきて、その頃の将来の夢は、インスタントラーメンを作っている食品企業に入って開発を担当し、ヒット商品を出すことでした。

## Interviewer

商学部3年次生 同志社大学拉麵研究会 会長

杉本 大雅さん

法学部3年次生 同 副会長

吉田 岳旦さん

スポーツ健康科学部3年次生 同 広報担当

田島 愛恵さん

## 【同志社大学拉麵研究会】

現在、会員120名のビッグサークル。ラーメン激戦区の京都の立地を生かした「麵活」(食へ歩き)のほか、試作会、イベントなどへの出店を行う。同志社EVEでは、毎年、長蛇の行列ができる。

吉田…意外と堅実…なんだかどうなんだか…。

伊藤…堅実なんですよ、僕は。石橋を叩きまくって渡るタイプです。で、大手食品企業に採用実績のある大学はどこかと探した結果、同志社大学に。だから、受験勉強も頑張りましたよ。どうです、堅実でしょう？

杉本…だけど、その後、微妙に路線が変わってきた？

伊藤…同志社EVEに出店した拉麺研究会のラーメンが、思いのほか売れたんですよ。頑張って300杯くらいか踏んでいたのが、まさかの1000杯超え。忙しくて死ぬかと思っただけど、いやあ、楽しかったなあ。これで生きていけたら最高じゃないか、と思って、将来の夢が「ラーメン店開業」に大きく傾いていったんです。

吉田…こういう店にしよう、というビジョンは最初からあったんですか。

伊藤…いや、最初はただうまいラーメンを作って出したいっていうだけ。だけど、ロールモデルはあった。サークルを作ったのと同時期に「らーめん鶴武者」でバイトを始め、店主の西村さんを師匠と仰いで教えを受けたんです。師匠はもう一人いて、「麺屋裕」の高松さん。二人とも、かっこいいんですよ。「かっこいい大人」というのを、初めて目の当たりにして、こういう大人になりたい、こういうラーメン屋になりたい、と思ったんです。



二人の師匠に挟まれて  
右往左往しながら見つけたもの

杉本…師匠が二人とは、なんとも贅沢な。でも、どっちの言うことを聞いたらいいのか、迷うことはなかったですか？

伊藤…そうなんだよねえ。西村さんと高松さん、わりと逆なことを言うから。高松さんに教わったことを西村さんの店で実践していたら、お前、それは違うぞ、と。

杉本…どうするんですか、そういう時は？

伊藤…あつ、そうっすね！と。僕は堅実な上に素直でもあるんです(笑)。でも、二人の師匠に挟まれて右往左往しながら修業して、だんだん分かってきたのは、違うことを言っている、二人とも見つけている先は同じなんだな、ということ。それなら僕もその先を目指そう、と思った。

吉田…深い！深いわあ、ラーメン道！

田島…アルバイトと修業の日々、サークルの活動からはちょっと距離を置いた感じですか？

伊藤…いや、全然。むしろさらにのめり込んでいきました。拉麺研究会は数十人くらいの規模になつていたんですが、僕があまりにもガチガチにラーメンを研究しているので、下級生はちょっと引いていたかも。あ、でもラーメンを食べ歩く機会は減りました。年間200食くらいです。

田島…ちょっと待って。ラーメン店のアルバイトだから、賄いもラーメンですよ。減ってないじゃないですか！

〳〳堅実〳〳と〳〳安定志向〳〳の  
違いを見極める

杉本…卒業後は日本製粉(現・ニッポン)に就職されたん



ですよ。

**伊藤**..はい、ちゃんと就職活動をして、入社後は業務用小麦粉の営業をしていました。堅実でしょう。(笑)

**吉田**..でも5年で退職して、独立開業に向かうわけですよ。そのまま会社で働いて出世しようという選択はなかったんですか。

**伊藤**..少しはそれも考えましたよ。業界大手だし、いい会社だったし。でも、やっぱり自分で勝負したい気持ちの方が強かった。

**杉本**..その辺で、堅実、というのにちょっと疑問符が…。

**伊藤**..ちょっと偉そうなことを言うのと、堅実、というのが、志向、というのは違うと思うんです。僕は学生時代も含めて10年かけて準備してきました。これは十分に堅実と言えるんじゃないでしょうか。でも、それは安定を求めることは違う。仕事は楽しくなければ人生はつまらないと思っているので、そのためには自分でリスクを取って勝負に出ることも必要です。今の時代、サラリーマンだって必ずしも安定しているとは言えないし、ね。

**田島**..伊藤さんは勝負に出るタイミングをどうやって決めたんですか。

**伊藤**..ひとは開店資金が貯まってきたから。もうひとは、これなら勝負できる、というラーメンができたから。



「麦の夜明け」の二枚看板「帆立と山椒の中華そば」(上)と「牛醤油と山椒の中華そば」(下)。麺はツルツルと喉越しが良いのに、帆立と牛醤油、それぞれのスープがよく絡んでくる。山椒が裏でいい仕事をしていて、食べ終わるのが惜しくなるような味。



**田島**..会社勤めをしながらもラーメンの研究を続けていたんですよ。

**伊藤**..ええ、身も心も、拉麵研究会なので。ちょうどコロナ禍で在宅勤務の日々が続いたのも、今にして思えばラッキーでした。リビングでリモート営業しているときに、キッチンでは鶏ガラを煮ている、という…。

**杉本**..僕らはコロナ禍でサークルの活動が制限されて、とても苦しかったですよ。

**伊藤**..それでも続けてきたんだよね。コロナでなくなっちゃったサークルも多いでしょ。拉麵研究会、よく頑張った！OBとして嬉しいよ。

**吉田**..伊藤さんの勝負できるラーメンのポイントは？

**伊藤**..売れるラーメンと自分の好きなラーメン、それをきっちり分けて考えることが大事だと思っています。売れるポイントは、分かりますよ。今、この「麦の夜明け」で出している「帆立と山椒の中華そば」と「牛醤油と山椒の中華そば」は、味の由来がはっきりしていて、分かりやすい。食べた人が納得して、満足してくれる。僕が好きなのは、逆に、分かりにくいラーメンなんです。食べた人が、これ、なんやろ、と首を傾げるような、でもなんだか後を引く。分からないからもう一杯食べてみようと思ってしまう、そんなラーメン。限定商品を作

るときには、この、分かりにくさを追究しています。

**田島**..開店8カ月で、「ミシュランの『ビブグルマン』」に掲載されました。ラーメン部門では最年少記録だそうですね。今後の目標は？

**伊藤**..ラーメン激戦区の京都から、全国に発信できるラーメン店になりたい。チェーン展開することじゃなくて、東京からわざわざ食べにきてもらえる、そんな店。

**杉本**..その志、感動します。先輩は「同志社大学拉麵研究会」の誇りです。

**伊藤**..それならもっと食べにきて(笑)。

## 取材を終えて

Interviewer  
同志社大学拉麵研究会

杉本 大雅さん



伊藤さんのラーメンや仕事に対する姿勢について学べたことは、サークル運営だけでなく、自身の将来について考える機会となりました。残り数カ月、全力で活動を頑張りたいと思います。

吉田 岳巨さん



伊藤さんとお話しして、研究に対する私のモチベーションが高まり、今なら良い出汁がとれそうです。これから同志社EVEの出店時期ですが頑張ろうと思います。

田島 愛恵さん



伊藤さんのラーメンへの愛と熱意を感じ、拉麵研究会を継承していきたい思いが強くなりました。このような貴重な機会を頂きありがとうございました。

# My Purpose 挑戦する人

ささほら ゆうま  
佐々原 悠馬さん  
政策学部政策学科  
4年次生

香川県出身。キャンドルナイトイベントを手がけるボランティアサークル・SAP\*の活動をきっかけに、地元の離島であるさぬき広島に移住。島民や自治体と連携し、地域振興をテーマに参与観察を進める。

\*Shinmachi Activate Projectの略称

## 島の暮らしに根差し あるべき地域像を描く



インタビュー動画も  
チェック



## 過疎化の進む島で 見つけた使命とは

島の人みんなに、愛すべき孫ができたというところか。香川県丸亀市の沖合、瀬戸内海に浮かぶさぬき広島(以下、広島)。最盛期には2000人が暮らした島も、往時の採石業に代わる産業を欠いたことで、現在の定住人口は150人ほどにとどまる。多くの離島同様に過疎化と高齢化が同時進行する広島だが、明るい兆しも見えてきた。自給自足、物々交換がいまなお息づく島でのボランティア活動を通して地域貢献や人脈づくりがしたいと、島の若者が続々と訪ねてくるようになったのだ。その中心に居るのが、政策学部の佐々原悠馬さん。対岸の丸亀出身で、学業のかたわら、この3月から広島に移り住んだ。

きっかけは、2022年の夏。佐々原さんは、自ら代表を務めるボランティアサークルの合宿地を丸亀に求めた。活動を通じて地元NPOと知己を得ると、合宿の受け入れ先として広島を紹介され、そこで島民とのBBQやNPOが世話する子どもたちとの海水浴を楽しんだ。交流を深めるうちに農村・漁村振興をテーマに卒業研究を進める佐々原さんの胸には、おのずと「ここで地域おこしをしたい」という思いが芽生えた。コロナ禍の真っ只中に入学した身には、人との関わりが生む温かみが何よりしみたのだろう。大学生活最後の1年間を、広島で過ごすことに迷いはなかった。

草刈りに農作業、デイサービスの手伝いから観光客のガイド役まで——若い佐々原さんの活躍ぶりは、まさに八面六臂の言葉通りだ。8月には荒廃した竹林の整備を兼ねて流しそうめんならぬ「流しうどん」のイベントを開催、企業の支援も取りつけて島内外から150人もの人を集めた。さまざまな行動の結果、離島特有の課題もあぶり出された。それは、定住と観光の間に位置する関係人口の確保。より住人に近い視点から島に関わる非定住者を増やすことが、過疎地域の持続可能性を形づくる鍵になるという。社会福祉協議会と積極的に連携し、高校生や大学生のボランティア受け入れに関与するのも、そうした考えが根底にある。

研究と実践の両輪で走り続ける佐々原さんの将来の夢は、地元の活性化だ。目下のとこる卒業後も島に残るか、大学院に進学するかで胸中は揺れているが、島暮らしで取り戻したであろう人懐っこい讃岐弁に、遠からず地域に尽くす姿が目に見えそうだ。



佐々原さんが企画した島を元気にするイベント「さぬきっ子夏流しうどんフェスティバル」の様子